



大会規則 Tournament Rules



- ① チームは、試合開始予定時刻の1時間前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それらについて何ら絡がない場合には、棄権とみなす。但し、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議して決定する。
- ② 第1試合のメンバー用紙交換及び攻守決定は、試合開始予定時刻の30分前とする。第2試合以後は前試合の4回終了後とする。
各チームの主将は、所定のメンバー用紙3通(放送がある場合は4通)を持参し、本大会本部に来ること。
- ③ 全試合、7イニングとし、得点差によるコールドゲーム(5イニング以降7点差以上)を適用する。但し試合成立は5回とし、暗黒・降雨によるコールドゲームは適用する。
【特別ルール】
所定のイニングまたは時間をもって終了時点で同点の場合は、次の特別ルールで勝負を決する。
無死満塁の状態にして1イニング行い得点の多いチームを勝とする。打者は継続打者とし、走者は当該打者の順次前とする。選手の交替は、通常の試合同様に行う。
最大2イニング行い、勝敗が決まらなければ試合終了時に出場していたメンバー9人で抽選を行う。
決勝戦は、時間制限は設けない。コールドゲームは適用する。7回終了時点で同点の場合は特別ルールで勝敗を決める。
- ④ 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合は、5回以前に中止になった場合(ノーゲーム)でも、5回を過ぎ正式試合になって同点で試合が中止の場合でも、原則として再試合にしないで、翌日の第1試合に先だって特別継続試合を行う。但し、決勝戦は再試合とする。
- ⑤ ベンチは、抽選番号の若い方を1塁側とする。先攻・後攻はじゃんけんで決める。
- ⑥ シートバックは、行わない。グラウンドには、監督、コーチ、登録選手20名で、事前練習等を行うものとする。
- ⑦ メガホンは監督のみ使用することができる。
- ⑧ バットリング、鉄棒等の球場への持ち込みを禁止する。
- ⑨ 事故防止のために、捕手のマスク・レガース・プロテクター・ヘルメット・ファールカップと打者、次打者、走者・ランナーコーチのヘルメットは必ず着用すること。ヘルメット、捕手用マスクはSGマーク入りを使用の事。
- ⑩ バット、マスク、ヘルメット、その他用具等は、試合前に審判員の確認に応じなければならない。
- ⑪ 突発事故が起きた場合に、一時走者を変えたいときは球審に申し出て、審判団が必要と認めた場合はこれを許可する。尚、審判員の判断でも可。(臨時代走、投手を除く打順前位の者とする。)
- ⑫ 選手交代の申し出は、監督が行う。
- ⑬ ルール上の疑義に対しては、当事者と監督が直接、質問することができる。
- ⑭ 天候等(降雨・雷)によって、試合の進行を中断することがある。
- ⑮ 監督はファウルラインを超えてダイヤモンドの中に入れる。但しかけ足のこと。
- ⑯ 野球規則5.10原注(投手は1イニングに投手以外の守備に2度以上つくことは許さない。)は本大会では適用しない。
- ⑰ 各チームの監督かコーチは、球場を去る前(試合終了30分以内)に本部と次の試合の日程を確認する。
- ⑱ 監督・コーチは選手と同じユニホームを着用する。
- ⑲ 勝ちあがりにより試合が続く場合は、前試合の終了後、次試合開始までは30分間の休憩時間を確保する。
- ⑳ グラウンド内での練習は、ダイヤモンド以外で行う。
- ㉑ その他、上記特別規程に明記なきことは、全軟連の競技規則並びにIBA-boys大会細則に準じて行う。
- ㉒ 投手の投球制限については、1日の投球リミットを100球とする。(投球リミットに達した場合、該当打者が終了後に降板する。)



大会規則 Tournament Rules



- ②③ インコース高めには絶対ウエストボールを投じない。もし、投球がそれで頭部に当たったとき審判員が判断した場合は、投手は交代しなければならない。
- ②④ 投手が他の選手と交代してベンチに下がった場合は、再び投手として戻ることはできない。但し、リエントリーを使って野手に戻ることはできる(リエントリー制については⑳を参照)
- ②⑤ 投手から野手へ守備交代した場合、その選手は再び投手として戻ることができる。その後、野手になることもできる。
- ②⑥ 申告敬遠を導入する。申告敬遠に関しては監督が申告する。この場合、実際に投手が投じた投球のみ投球数にカウントする。
- ②⑦ リエントリー
 - ・先発9名に限り、一度交代してから再び一度だけ試合に戻ることはできる。
 - ・選手は元の打順に戻る。複数の交代選手が使われる場合でも、交代した先発選手の打順を変更することのないように注意をすること。
 - ・投手が他の選手と交代してベンチに下がった場合は、再び投手として戻ることはできない。但し、野手に戻ることはできる。

【競技場の注意事項】

- ① 天候等による大会実施の可否については、各チームに大会本部より連絡する。
- ② 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチはミーティングに参加せず、直ちに所定の場所につくこと。
- ③ 攻守交代のとき、投手又は投手プレートに最も近い野手がボールをプレート近くに置く。
- ④ 打者は、みだりに打者席をはずしてはいけない。サインは、打者席から見る。
- ⑤ 無用のタイムは慎み、試合進行に協力すること。
- ⑥ 試合中のグラウンド内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら、次打者は、ネクストバッターサークルで待つこと。
- ⑦ テーピングは投手の指先は禁止とし、その他については審判団の判断に従うこと。
- ⑧ 「野次」は絶対に慎むこと、また中学生らしくない危険なプレーは行わないこと。
- ⑨ 選手は、スポーツマンとして恥ずかしくない態度をとるように心がけること。
- ⑩ 応援団は、次の禁止事項を守る。
 - (1)紙吹雪、紙テープ、個人名を書いたのぼり等の使用。
 - (2)「野次」など相手チームに不利になるような応援。
 - (3)応援席を散らかしたまま帰ること。
- ⑪ スコアカード(本部で用意)に自チームの攻撃、及び自チーム投手の投球回数を記録し本部に提出する。
- ⑫ 試合時間、試合終了時間時の考え方
 - (1)決勝戦以外の試合時間は、100分とする
 - (2)後攻チームが負けている状況で、(そのイニングに試合終了時間となり)攻撃を続けて逆転した場合は、逆転を持って試合を終了する。(次の回には進まない)
 - (3)後攻チームが負けている状況で、(そのイニングに試合終了時間となり)攻撃を続けて同点となった場合は、特別継続試合を行う。(次の回には進まない)
 - (4)先攻チームが勝っている場合では、(そのイニングに試合終了時間となり)その回の後攻を行い試合終了とする。尚、時間については、運営委員が開始時間を両チームに伝える。計測は運営委員が行う。また、最終回、及び残り時間についての通告は、行わない。